

## ベラルーシ公開情報とりまとめ

(9月23日～9月29日)

2024年10月8日

在ベラルーシ大使館

### 【主な出来事】

- ロシアの無人航空機のベラルーシ領内への侵入(9月24日、26日)
- リイジエンコ外務大臣の第79回国連総会への出席(9月26～28日)
- ベラルーシへの侵攻に対してロシアが核兵器を使用するとのルカシェンコ大統領の発言(9月27日)
- ベラルーシには核兵器が配備済みとするリイジエンコ外務大臣の発言(9月27日)

### 【ルカシェンコ大統領動静】

#### ●ベラルーシへの侵攻に対してロシアが核兵器を使用するとのルカシェンコ大統領の発言

9月27日、ルカシェンコ大統領は、ベラルーシ国立情報・無線通信大学(BSUIR)における講話と学生との交流につき発表したところ、核兵器に関する発言のみ要旨以下のとおり。

- ・ベラルーシに侵攻があるなら、第三次世界大戦になる。我々に対して攻撃があるなら、我々は直ちに核兵器を使用し、ロシアは我々のために介入する。
- ・国境への侵攻に直ちに反撃する準備体制あり。
- ・我々はウクライナと話をつけなければならず、この戦争を止めなければならない。

(9月27日 大統領府)

・ジャイシャンカル・インド外務大臣との会談

(27日)

・サッバーグ・シリア外務大臣

・ピント・ベネズエラ外務大臣

・シャワ・ジンバブエ外務大臣

(28日)

・グテーレス国連事務総長

・アラグチ・イラン外務大臣

・バイラモフ・アゼルバイジャン外務大臣

(2)国連総会での演説(9月28日)

リイジエンコ外務大臣は、要旨以下のとおりを発言。

・リイジエンコ外務大臣は、西側諸国が、その利益に反し自国と自国民の利益を優先した国々に対して不法かつ一方的な制裁や内政干渉を行っているとして非難。

・移民をめぐる問題に関しては、西側が移民をベラルーシに「押し込み」、殺害していると批判。他方で、ウクライナ人の移民がEUから多数ベラルーシに入国している旨述べ、ベラルーシが「侵略者」ではない旨強調。

・欧洲には十分な核兵器があるため、緊張の激化は第三次世界大戦へ直結するとの危惧を表明。

・ウクライナ情勢に関しては、ベラルーシは誰よりもロシア人とウクライナ人のことを理解して紛争の仲裁への尽力を申し出しており、ウクライナに平和を取り戻すために全てを行う旨述べ、ベラルーシが本件に誰よりも関心を持っている旨強調。また、ブラジルと中国による和平交渉案は時宜にかなつたものだと評価した上で、ベラルーシとロシアの参加なくして和平交渉は成し得ない旨指摘。

・ルカシェンコ大統領による、グローバルな安全保障

### 【外交】

#### ●リイジエンコ外務大臣の第79回国連総会への出席

##### (1)各国代表との会談

リイジエンコ外務大臣が会談を行った各国・各機関代表らのうち、主な会談相手は以下のとおり。

(26日)

・ラヴロフ露外務大臣

・ヌルトレウ・カザフスタン副首相兼外務大臣

・スピリアリッチ・エッゲー赤十字国際委員会委員長

・サイードフ・ウズベキスタン外務大臣

・シーヤルト・ハンガリー外務貿易大臣

・アル・ムライヒ・カタール外務大臣兼国務大臣

・アブダッラー・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーンUA  
E副首相兼外務大臣

に関する対話を開催するイニシアチブについて、国連加盟国の多くの代表が今次総会で語った全てのイニシアチブとよく一致しているとして、ベラルーシが「平和と創造」と「安全保障と開発」を求める旨発言。

(9月26日～28日 外務省)

## 【内政】

### ●最高裁判所は、「カリノフスキ一連隊」を「テロ組織」に認定

- 最高裁判所は、シュヴェド検事総長の要求に応じ、「カリノフスキ一連隊」を「テロ組織」に認定した。
- 検察庁は、「カリノフスキ一連隊」の隊員らが、「テロリストを雇用し、武装させ、訓練し、利用し、テロ活動に資金を提供した。その結果、テロ行為や過激派志向の犯罪がベラルーシ領で行われた」と主張。
- これに対し、「カリノフスキ一連隊」は、今次決定は独裁者の新たな一步であり、戦争を拡大し、ロシアへの忠誠を示すために必要なものであったとし、ルカシェンコは権力を保持するために何でもする用意があると批判。また、「我々は、ルカシェンコ政権及びベラルーシ国民への暴力や抑圧を行っている全ての者をテロ組織と認定し、ベラルーシの完全な解放まで、戦い続ける」と主張。

(9月25日 「ゼルカロ」)

### ●9月27日現在の政治犯の数は1,325人

(9月27日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

## 【軍事・安全保障】

### ●ロシアの無人航空機のベラルーシ領内への侵入

- 9月24日朝、「シャヘド」型の自爆攻撃型無人航空機(UAV)1機がベラルーシ領に侵入。同日朝にはベラルーシ軍機は発進せず。侵入した UAV のその後は不明。
- 9月26日、「シャヘド」型の自爆攻撃型無人航空機(UAV)少なくとも4機がベラルーシ領に侵入。「シャヘド」の1機はウクライナからではなく、ロシアからベラルーシ領に侵入。

(9月24日、26日 「ベラルスキ・ハウン」)

### ●ベラルーシには核兵器が配備済みとするルイジエンコフ外務大臣の発言

ルイジエンコフ外務大臣は、訪問中のニューヨークにおいてロシアメディア「RTVI」のインタビューに応じ、要旨以下を発言。

- ベラルーシ領には既に核兵器が配備されている。そのことをベラルーシの近隣諸国全ても承知しており、ベラルーシの国境で軍備を増強しているが、それ以上先には一切踏み込んではいない。
- ベラルーシ・ロシア両国が本年署名予定の安全の保証に関する条約に、核兵器に関する条項も盛り込まれる。

(9月27日 露「RTVI」、28日 「ゼルカロ」)

### ●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(9月23日～9月29日)

- リトアニア国境警備局は不法越境の人数を発表せず。
- ラトビア国境警備隊は少なくとも16人を阻止。
- ポーランド国境警備隊は少なくとも650人を阻止。

(9月24日～9月30日 「ポジルク」)

## 【民主勢力の動き】

### ●チハノフスキヤ民主勢力代表の動向

#### 国連総会への出席

9月22日～27日にかけて、米国を訪問し、第79回国連総会ハイレベルウィークに出席。

##### (1)各国代表との会談

スウェーデン、オーストラリア、フランス、リトアニア、エストニア、カナダ各国の外務大臣の他、首脳、国際機関の代表等計40か国以上の代表と会談。

##### (2)ベラルーシに関する公聴会の実施

国連EU代表部が主催の下、エストニア、リトアニア、スペイン、ドイツ、フランス各国の国連代表部とともに、ベラルーシに関する公聴会を実施。約50か国の代表が出席した。

チハノフスキヤ民主勢力代表は、同イベントに参加した各国の支援に謝意を表明。政治犯の釈放を歓迎し、他の政治犯を釈放する方法を模索するよう呼びかけ。

ランズベルギス・リトアニア外務大臣は、ベラルーシ政権がベラルーシ人だけではなく、地域全体の脅威と

なっている旨指摘。

・ツアフナ・エストニア外務大臣は、ベラルーシの抑圧された人々を支援する国際人道基金への支持を表明し、政治犯の釈放を要求。

#### **第 57 回国連人権理事会**

・9月 23 日、ジュネーブにて、2020 年大統領選挙の前後でのベラルーシにおける人権状況に関する公聴会が実施された。

・公聴会の参加者は、ルカシェンコ政権による市民社会への組織的な攻撃、異論派を弾圧するためのベラルーシの司法制度の道具化、人権保護の国際的な義務の不履行などに注目した。

・公聴会では、チハノフスカヤ氏の演説の動画が上映された。動画の中で、同氏は、「ベラルーシの刑務所は死の罠である。国連に行動を求める。世界の指導者たちに、政治犯の釈放を優先するよう求める。大きな声で訴えてほしい。影響力を行使していただきたい」と主張。

(9月 23 日 「ポジルク」)

#### **●アレシ・ビヤリヤツキ氏の釈放に向けた活動**

9月 25 日、ノーベル平和賞受賞者である人権活動家ビヤリヤツキ氏の誕生日に合わせ、各地で同氏の釈放に向けた活動が行われた。

・ドイツ・スイスの人権団体「Liberco」は、同日在ベルギー・ベラルーシ大使館付近でピケを実施。ビヤリヤツキ氏の釈放を求める 8 万 2,000 人の署名を集め、在ベルギー・ベラルーシ大使館に提出。

・同日、ノーベル委員会は、ビヤリヤツキ氏の妻であるナタリヤ・ピンチュク氏と会談。会談後、同委員会は、ビヤリヤツキ氏がおかれている非人道的な状況を非難し、同氏の即時釈放を要求。

(9月 25 日 「ポジルク」)

(了)